

プラグイン名

acts_as_versionedプラグイン

このプラグインができること

1. モデルを更新するたびに、旧データを別テーブルに保存しておき、必要であればいつでも昔のデータに戻す事が出来る

対象バージョン

1.2系

ちょー簡単な使い方

バージョン管理したいモデルを先に作って、マイグレーションも完了させておく。

```
script/plugin install acts_as_versioned
```

でインストールして、バージョン管理したいモデルに

```
class Baserecord < ActiveRecord::Base
  acts_as_versioned
end
```

と使用を宣言して、

```
script/generate migration add_verions
```

でバージョン保持用のテーブルを作るためにマイグレーションファイルを用意。

このマイグレーションファイルは定型で良い。(Wiki.create_versioned_tableで使うための設定を自動的に行う)

```
class AddVerions < ActiveRecord::Migration
  def self.up
    Baserecord.create_versioned_table
  end
  def self.down
    Baserecord.drop_versioned_table
  end
end
```

最後に

```
rake migrate
```

で使用可能。

使い方は[RoR Wiki 翻訳Wiki ActsAsVersioned](#)が詳しいよ。

公式ページ

<http://ar-versioned.rubyforge.org/>

RDocのみ

- ▶ [こことかこのへん](#)参照

日本語解説ページ

- ▶ [RoR Wiki 翻訳Wiki ActsAsVersioned](#)

基本

- ▶ [acts_as_versionedのTips](#)

応用

外国語解説ページ

- ▶ 今のところ必要ないかも(日本語で情報が足りる)

のうはう

- ▶ マイグレーションファイルの構造



[WWW SQL Designer](#)

- ▶ こんな構造なので、元テーブルのカラムが大きかったり(バイナリ型だったとか)、更新頻度が非常に高いと、バージョン保持用テーブルがすごいことになります。

コメント

名前:

書き込む